

「HPV 感染症」と「HPV ワクチン」のこと

～キャッチアップ接種のご案内～

ほけせん便り 239 号

東京外国語大学 保健管理センター

学校医 山内康宏

2024 年 1 月 23 日

HPV 感染症は、ヒトパピローマウイルス(human papillomavirus: HPV)によって生じる感染症で、子宮頸がん、肛門がん、膣がん、咽頭がん等のがんや尖圭コンジローマ（性器周辺のイボ／良性腫瘍）等の多くの病気の発生に関連している感染症です。

HPV は、主に性交渉を介して、皮膚や粘膜にある細胞に感染します。性交渉を経験する年頃になると、男女を問わず、多くの人々が HPV に感染すると言われていています。HPV に感染しても約 90%の確率で、感染後数年以内に HPV ウイルスが自然に排除されますが、しかし、自然に排除されずに長期間持続的に感染したまましていると、がんになることがあると報告されています。HPV には 100 種類以上の多くの種類（型）が存在し、中でも 15 種類程度（16, 18, 31, 33, 45, 52, 58 型等）ががんになるリスクが高いこと、また 6, 11 型等は尖圭コンジローマを生じる原因であることが分かっています。

子宮頸がん（上皮内がんを含む）は、若い世代の女性のがんの中で多くを占めており、20～30 代から増え始め、発症年齢のピークが妊娠・出産年齢と重なることもあり、深刻な病気です。その子宮頸がんの 95%以上において HPV への感染が原因と考えられています。HPV に感染してから子宮頸がんへ進行するまでの期間は、数年から数十年と考えられていますが、なかでも、HPV16 型、18 型への感染は、特に前がん病変や子宮頸がんへ進行する頻度が高く、またスピードも速いと言われていています。しかし、HPV16 型、18 型への感染は HPV ワクチンによって防ぐことができるとされていますので、子宮頸がんの予防の観点から、HPV ワクチンの接種がとても大切であると考えられています。HPV ワクチンの接種により子宮頸がんの前がん病変を予防する効果が示されており、また既に接種が進んでいる一部の国では、子宮頸がんそのものを予防する効果があることが分かっています。

HPV ワクチンは定期接種の対象となっていますので、定期接種対象者（小学 6 年生～高校 1 年生相当の女性）は公費（自己負担なし）で受けることができます。また、HPV ワクチン接種をすすめる取組みが一時的に差し控えられていた時代（接種後に生じうる多様な症状等について十分な情報提供をできない状況にあった等）の影響により、現在、通常の HPV ワクチンの定期接種の対象年齢の間に接種を逃した方のために、公費で接種が可能な「キャッチアップ接種」の機会が提供されています。キャッチアップ接種の対象者は、平成 9 年度生まれ～平成 18 年度生まれ（誕生日が 1997 年 4 月 2 日～2007 年 4 月 1 日）の女性で、過去に HPV ワクチンの接種を合計 3 回受けていない方が対象となっていて、公費で接種が受けられる時期は、令和 4 年（2022 年）4 月～令和 7 年（2025 年）3 月までの 3 年間です。具体的な接種は住民票のある市町村からのお知らせをご確認ください。

ただし、HPV ワクチンによる予防接種で全ての子宮頸がんを予防できるわけではありません。子宮頸がんは初期症状がほとんど出ないため、気付きにくいという特徴を持っていますので、定期的な検診を受けることにより、がんになる前段階やがんの初期段階で発見することが大切です。子宮頸がん検診は

20 才を過ぎたら 2 年に 1 回、子宮頸がん検診を受けることが推奨されています（HPV ワクチン接種の有無に関わらない）。20 才以上の女性は公費で子宮頸がん検診を受けられるように取り組んでいる自治体（区市町村）もありますので、各自治体での取り組み・実施体制をご確認ください。

以上より、現時点では、子宮頸がんへの対策は、HPV ウイルスに感染しないようにワクチン接種で予防することと、定期的に検診で確認していくことが重要です。

子宮頸がんは進行すると「性交渉のときの出血」、「生理日以外の出血」や「いつもと違うおりものが増えた」等の症状がみられます。このような症状を自覚した際には、早めに医療機関を受診しましょう。

HPV ウイルスは、子宮頸がんだけでなく、咽頭・陰茎・肛門などの男性にできるがんの原因となることも知られています。また、性感染症としての尖圭コンジローマも HPV ワクチンの接種で防ぐことができます。また将来にパートナーにも感染させないことにもつながるため、男性においても接種している国が数多くあります。現時点では、日本で男性の HPV ワクチン接種は定期接種の対象ではないですが、任意接種（自費）で HPV ワクチンの接種を受けることは可能です。

HPV 感染症も社会の中で感染している人の数が減ると、それに伴う病気が減ると考えられます。多くの方が HPV ワクチン接種による HPV への免疫を獲得することにより、その集団免疫効果が期待され、長期的な観点から HPV によるがんの発生低下やそのがんの撲滅効果も期待されています。

ご不明な点等ありましたら、保健管理センターまで、どうぞご相談ください。

参考 URL

ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）と HPV ワクチン～ [厚生労働省]

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou28/index.html>

子宮頸がん と HPV ワクチンに関する正しい理解のために [公益社団法人日本産科婦人科学会]

https://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=4

ヒトパピローマウイルス(HPV)感染症について [一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会 感染症委員会 ワクチンチーム]

<https://www.vaccine4all.jp/topics I-detail.php?tid=10>

もっと知りたい子宮頸がん予防

<https://www.shikyukeigan-yobo.jp/causes/>

みんなパピ_みんなで知ろう HPV プロジェクト

<https://minpapi.jp/>